

# 教科等研究会(小学校社会部会)

## 令和4年度 研究活動のまとめ

### 1 研究テーマ

持続可能な社会の創り手を育てる社会科学学習

### 2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
期日	人数	場所	期日	場所	講師	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者
6/6	25人	飯野	10/28	飯野	藤瀬泰司	11/11	高木	山本 大	1/26	広安西	岩田輝久

### 3 研究の概要

#### (1) 研究の内容

##### ① 研究主題設定の理由

###### ○ 本研究部会のあゆみ

本研究部会では、学習指導要領をもとに、主体的に調べて考える学習活動及び児童の問いを大切にしたい問題解決的な学習を進めてきた。特に言語活動を大切にしたい学習の取組は、多角的な思考力や判断力、表現力を育成する上で大きな成果をあげてきたと考えている。

今年度もこれまでの取組の成果をふまえ、上益城郡教科等研究会の全体テーマも考慮した上で、社会科における言語活動の充実を図りながら、児童が習得した知識や技能をもとに思考・判断し、表現することのできる授業づくりを更に充実させていきたいと考えた。

また、本研究部会では、「生き方を求め合う」や「未来を育む人間を育てる」などにあるように『人間の生き方に迫る』という点にこだわって教材を開発したり授業展開を考えたりしてきた。人と出会い、その生き方・考え方に触れることは、より教材が身近な問題になるだけでなく、社会科において必要となる概念形成を目指すためにも今後も授業づくりのなかで大切にしていきたい。

###### ○ これからの社会科学学習に求められるもの

「知識基盤社会（新しい知識、情報、技術が政治、経済、文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す社会）」と言われる時代がはじまり、とりわけ、旧来のパラダイムの変換を伴うことの多くなる社会では、幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断がますます重要であると考えられるようになった。これから求められる「生きる力」とは、社会が日進月歩で変化しつつある中で、社会に主体的に対応し、問題解決に取り組める力であり、それはそのまま求められる人間像でもある。

令和2年度から、新学習指導要領が完全実施となった。新学習指導要領のキーワードは「主体的・対話的で深い学び」の実現であるが、このことは、社会科においては知識・技能を活用することで思考力・表現力等を育成し、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養を目指すものであり、それらは問題解決的な学習による学びの必要性を示唆している。

また、国内外の学力に関する調査結果からも、思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式の問題に、徐々に改善されつつあるものの、やはり課題が考えられることが明らかとなっている。今後も習得した知識や技能を基に、活用する力を培うことが、今日的な教育課題である。

##### ② 研究の視点

###### 視点1 「人間の生き方に迫ることのできる教材開発」

上益城郡がこれまでこだわって「学び」にしてきた部分である。学習指導要領のねらいを達成するために、何を学ばせるのか、自分の生き方にどうつなげていくのかを明確にし、地域人

材を活用して人間の生き方に迫る。

社会科は、人間の営みを通して人間の生き方に学び、自らの生き方を考えるという本質を持つ教科である。そのため、授業づくりでは、学習の中で人間の生き方にふれ、何を学ばせるかに重点をおくことが大切となる。

本研究では、ねらいを明確にし、日常生活に密着した内容から入るなどの工夫を行いながら、ゲストティーチャーをはじめ様々な手立てで、人の生き方や考え方を学習したり、人材を活用したりすることが教材の本質につながると考えた。

上益城では、熊本地震において、本県最大級の震災を経験することとなった。そこには、復興やきずなを取り戻そうとする人々の姿や、その現実に対応し、問題解決に取り組もうとする人々の姿があった。そこにも、社会科で目指す人間像があった。そこで、本研究では、それらの教材化も重点的に行っていくこととした。

## 視点2 「主体的・対話的で深い学びを実現する学習活動」

主体的な学びについては、児童が学習課題を把握し、その解決への見通しを持つことが必要である。そのためには、単元などを通じた学習過程の中で動機付けや方向付けを重視するとともに、学習内容・活動に応じた振り返りの場面を設定し、児童の表現を促すようにすることなどが重要である。

対話的な学びとして、実生活で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決していく姿を調べたり、話を聞いたりする活動を設定していく。

これらを踏まえ、深い学びの実現のために、「社会的な見方・考え方（視点や方法）」を用いた考察、構想（選択・判断）や説明、議論等の学習活動が組み込まれた、課題を追求したり解決したりする活動を行っていく。

## 視点3 「児童の学びを見取り、確かな力をつける評価」

評価活動では、教師が児童のよい点を励まして学習意欲を高めたり、児童一人一人の学習目標の達成状況をより正確かつ効果的に把握したりすることを大切に、これまでの指導及びその成果を振り返り、今後の指導改善に生かしたり、多様な達成状況の児童に対して個別指導を行ったりする目安とする。

本研究部会では、目指す児童像に即して、児童の発言やノート、振り返りなど、一時間一時間の学習活動の中から、児童の変容を見届けていく。そして、児童一人一人の学習目標の達成状況をより正確かつ効果的に把握していく。

そのために、現実かつ継続的評価が可能となる様々な方法を検証するものとする。また、児童の取組や育ちを刻々と見取り、励ましながら自己評価や自己変容の記録、児童同士による相互評価等を充実させたい。

## (2) 成果と課題

### 【成果】

- 第2回の研究会では、熊本大学の藤瀬泰司教授を講師として招き、「子どもの社会認識をよりよく成長させる小学校社会科の授業づくり」と題し、講話をいただいた。その中で、児童の思考の流れに沿った授業づくりを行っていく重要性を再確認できた。
- 第3回の研究会は、上益城の地域素材としても有名な「通潤橋」を扱った学習内容であり、部会員で研究を深めるよい機会となった。また、学習を通して、通潤橋を残していきたいという地域住民の思いに触れ、本部会がこだわってきた人間の生き方に迫る教材開発を学ぶことができた。
- 第4回の研究会では、児童のやる気を引き出す学習問題の設定がなされており、児童は、その課題を解決するために、学習を通して必要な知識を身につけ、思考力・判断力・表現力へとつなげ、意欲的に課題を解決していこうとする姿が見られた。指導者が直接足を運び、情報を集め、裏付けされた事実を土台とした授業の在り方は、部会員にとっても大変参考となった。
- コロナ禍の状況ではあったが、学習構想案を2本作成することができたことは大変意義深く、部会員の学びの場となった。部会員に発信するだけでなく、各校で社会科の構想案を広げてもらうことで、郡内の社会科の授業力アップにつながるものと考えている。
- 2月の全国小学校社会科研究協議会研究大会熊本大会（全国大会）において、上益城のこれまでの実践をまとめ、全国に発信することができた。

## 【課題】

- 新学習指導要領の趣旨や社会科の本質を踏まえた上で、資料の効果的な活用、上益城の地域素材・人材を活用した人間の生き方に迫る授業づくりをさらに進めて行く必要がある。また今後も、誰にでもできる（やりたくなる）社会科の授業づくりを目指し、郡内に広めていきたい。（視点1）
- 根拠を持って自分の考えを論じる活動をより多く取り入れたいと思う反面、学習時間の配分とのバランスの難しさが、単元デザインの工夫と自分の考えの論じ方のさらなる追求が必要である。（視点2）
- 考え・論じる学習において、話し合うことを活発に行うだけにとどまらず、学習の定着や単元で必要な概念的知識の獲得に確実につなげていくことが必要である。そのためにも、評価の在り方をさらに協議していく必要がある。（視点3）

## 4 実践事例

### (1) 授業の概要

単元名 情報化した社会と産業の発展「情報を生かす産業」 （東京書籍 新しい社会5年）

#### 【自評】(広安西小学校 岩田教諭)

- 導入部分は、予定通りだったが、長すぎた（15分）。メリハリをつけることで、さっと流せるところもあった。
- 展開部分は、考えることが3つあり欲張りすぎた。本来は、いろいろな角度から意見を出させたかったが、最低限のものとなってしまった。
- まとめ部分は、振り返りまで行けなかった。あれもこれもという思いから時間配分ができていなかった。もっとシンプルにできたらよかったと思う。

#### 【指導助言】(飯野小学校 島田部会長)

- 学級の雰囲気がとてもよく、参観された先生方は、とても温かい気持ちになったのではないかな。
- 構想案を作り上げるまでに、足を運んで情報を集めるなど、先生が多くの時間を使っていることがよく分かる。このことは今後必ず役に立つはず。
- 科学的な目を持って資料を集めたことが分かる。
- 「めあて」と「問い」に関しては、「めあて」が先だと教師の意図を示しやすいが、「問い」を見つける力が育ちにくい。「めあて」が後だと子供主体の学びができ、問題発見ができる。ただし、意図したところにたどり着けないこともある。
- 求める児童の姿は、「持続可能な社会の創り手」であり、評価の観点の内容から単元を作ってみてはどうか。文の終わりに「児童」を付けてみると分かりやすい。「知識・技能」は、調べて分かる児童、まとめて分かる児童。「思考力・判断力・表現力」は、学習したことをもとに社会へのかかわり方を選択・判断して、適切に表現している児童。「主体的に学習に取り組む態度」は、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしている児童。
- 留意することは、パターン化された授業形態に当てはめるのではなく、目の前にいる子供の姿を見て授業を作ること。パターン化された授業形態に当てはめるのが一番よくない。
- 社会科で目指して欲しいことは、「木を見て森を見ること」。単元サイクルで授業を見ることが大切。ものを覚えるばかりの社会科であってはならない。

### (2) 学習構想案(要約版)

#### ア 単元目標

- (1) コンビニエンスストアは、消費者の情報や情報通信技術を活用することによって、私たちの生活を便利にしていることを理解することができる。
- (2) コンビニエンスストアで扱う情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、情報活用の現状を捉え、私たちの生活に具体的にどのように役立てられているか、考えることができる。
- (3) 消費者の情報や情報通信技術が、コンビニエンスストアをはじめとする各種産業でどのように活用されているのか関心を持つ態度を養う。

#### イ 単元終了時の児童の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)

コンビニエンスストアでは、どのような情報を何のために活用しているのかを理解し、活用された情報は私たちの生活をどのように便利にしているか考えることができる児童。

#### ウ 単元を通じた学習課題

コンビニの店長になりきって、たくさんのお客さんに来てもらうためにはどのような工夫が必要か調べよう。

エ 本単元で働かせる見方・考え方

コンビニエンスストアで扱う情報の種類や活用の仕方に着目して捉え、活用された情報は私たちの生活に具体的にどのように役立てられているか捉えること。

オ 単元の指導計画(6時間扱い)

時数	学習活動	評価の観点
1 ①	○学習問題をつくり、学習計画を立てる。【コンビニの店長になりきって、たくさんのお客様に来てもらうためにはどのような工夫が必要か調べよう。】	態-①
2 ③[本時]	○コンビニエンスストアでは、情報をどのように販売の仕事に活かしているか調べる。 ○コンビニエンスストアでは、情報をどのように配送の仕事に活かしているか調べる。 ○コンビニエンスストアでは、情報通信技術を使って、どのようにサービスを広げているか調べる。	知-① 知-② 知-③
3 ①	○たくさんのお客様に来てもらうために、コンビニエンスストアはどのような工夫をしているかワークシートにまとめる。	思-①
4 ①	○学習問題に対する自分なりのアイデアを出し、友達と共有する。	思-②

カ 本時の学習

〈目標〉

- ◎ 消費者から得た情報を、コンビニエンスストアの本部はどのように販売の仕事に活用しているのか理解する。

〈展開〉

時間	学習活動	指導上の留意事項
導入 10分	<p>1 前時のふり返しを行う。</p> <p>2 資料「本部へ送られるお客様の情報(30年前)」を提示し、本時のめあてをつかむ。</p> <p>① コンビニは、お客様の情報をどうやって手に入れているのか理解する。</p> <p>② 本部とは何か知らせる。</p> <p>③ 本時のめあてを立てる。</p>	<p>○前時に話し合った「どんなコンビニにしたい?」という内容を振り返った上で、学習問題を確認する。</p> <p>○ナナコカードに個人情報が入っていることをイメージできない児童が多いと考えられるので、「ナナコカード入会申込書」などを提示し、カードの申し込みをする際に個人情報を書いていることを理解させる。</p> <p>○本部とは、コンビニ会社のリーダーの人達だと押さえる。</p>
展開 30分	<p>3 コンビニエンスストアの本部は、各店舗から集めた客の情報を、何に役立てているか調べる。</p> <p>① 資料から見て分かることをペアで調べる。</p> <p>② 資料「本部へ送られるお客様の情報(現在)」から分かることを調べる。 (自力解決→全体共有)</p> <p>③ 幅広い層のお客様が来るようになった理由をグループで考える。</p> <p>4 本時の学習をまとめる。</p>	<p>○資料から、各店舗の状況を考えさせ客層が偏っていることに気づかせたい。</p> <p>○30年前と比べて、客層や商品の種類が増えていること、新商品が出ていることなどに目を向けさせる。</p> <p>○何を売ったら幅広い客層に来てもらえるかを考えたり、新商品を出したりしたことによるものだと気づかせたい。</p>
終末 5分	<p>5 本時の学習を振り返る。</p>	<p>○振り返りシートに、「たくさんのお客様に来てもらうためには、どんな工夫をすればよいか」という視点で振り返りを書かせる。</p>